

金剛道智開山・

# 相応院の 文化財

平成26年3月26日(水) — 4月13日(日)

9時〜19時(3月は17時まで)

休館日/毎週月曜日

観覧料/一般200円 高校生以下無料

主催/白鷹町文化交流センター

協力/相応院、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

【同時開催】梅津五郎通常展2



あゆむ

白鷹町文化交流センターAYU:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町鮎貝7331番地

TEL.0238-85-9071

# 金剛道智開山・相応院の文化財

白鷹町文化交流センターでは各年1回「白鷹町の仏像展」を開催しております。今回はその第3弾で、白鷹町鮎貝に所在する古刹・相応院の文化財を展示します。

相応院は、県内屈指の名僧である道智<sup>どうち</sup>により、鮎貝城主の祈願所として開山されました。道智は室町時代・応永年間(1394～1427)頃に活躍した僧で、出羽三山への参詣路(道智道)を開削・整備したことで特に知られています。

本展では道智に直接関係する文化財として、本人が使用したと考えられる<sup>おい</sup>笈(室町時代前期)と五鈷鈴(南北朝時代～室町時代前期)を展示します。笈とは仏像や仏具などを納めて背負う箱、いわばリュックサックといえるものですが、修験者たちにとっては単なる運搬具でなく、加持祈禱を行うための仏具の一つとして使用されてきました。残念ながら、相応院の笈は扉などの主要部材が失われていますが、全体の大きさや形と金具の形式などから、東北最古の遺例である可能性が指摘されています。

この他、京都七条仏所に連なる福地善慶制作の木造大日如来坐像(寛政8年、1796)など、相応院に伝わる文化財を余すことなくご紹介いたします。



1



2



3



4



5

1. 笈(伝道智所用) 室町時代前期
2. 五鈷鈴(伝道智所用)  
南北朝時代～室町時代前期
3. 木造不動明王立像 室町時代
4. 銅造歡喜天立像 室町時代
5. 木造焰摩天立像 江戸時代後期



## 関連イベント

参加料無料 ただし当日の観覧券が必要

### ■ 講演会「道智和尚と相応院」

4月6日(日) 11～12時

講師:佐藤眞隆(相応院住職)

### ■ 講演会「道智道を歩いてみた」<sup>どうちみち</sup>

4月13日(日) 14～15時

講師:江口儀雄、丸川二男(白鷹町史談会)

1979年9月、郷土史家の奥村幸雄をリーダーとして、道智道を実際に歩いて湯殿山を目指す調査を実施しました。そのときの模様と道智道の実際を語ります。

### ■ 学芸員による展示解説

3月29日(土)、30日(日) 14～15時



## 白鷹町文化交流センター AYU:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町鮎貝7331番

■ お車でお越しの場合/山形市より国道348号線で約35分

■ 電車でお越しの場合/赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線[荒砥行き]で「四季の郷駅」下車(赤湯駅から約50分) 徒歩約4分

shirataka@ayu-m.jp <http://www.ayu-m.jp/>

TEL.0238-85-9071